

真言宗は天竺よりは之無し。開元の始めに善無畏三蔵・金剛智三蔵・不空三蔵等天台大師の己証の一念三千の法門を盗んで大日経に入れ、之を立て真言宗と号す。華嚴宗は則天皇后の御宇に之を始む。澄観等天台の十乗の観法を盗んで華嚴経に入れ、之を立て華嚴宗と号す。法相・三論は言ふに足らず。禅宗は梁の世に達磨大師楞伽経等大乗の空の一分を以てせしなり。其の学者等大慢を成して教外別伝等と称し、一切経を蔑如するは天魔の所為なり。浄土宗は善導等観経等を見て一分の慈悲を起こし、撰地二論の人師に向かつて一向専修の義を立て了んぬ。日本の法然之を誤り、天台真言等を以て雑行に入れ、末代不相応の思ひを為し國中を誑惑して長夜に迷はしむ。之を明らめし導師は但日蓮一人なるのみ。

涅槃経に云はく「若し善比丘あって法を壞る者を見て、置いて呵責し駈遣し拳処せずんば、当に知るべし、是の人は仏法の中の怨なり」等云云。灌頂章安大師云はく「仏法を壞乱するは仏法の中の怨なり。慈無くして詐り親しむは即ち是彼が怨なり。彼が為に悪を除くは即ち是彼が親なり」等云云。法然が捨閉閣抛、禅家等が教外別伝、若し仏意に叶はずんば日蓮は日本国の人のは賢父なり、聖親なり、導師なり。之を言はざれば一切衆生の為に「慈無くして詐り親しむは即ち是彼が怨なり」の重禍脱れ難し。日蓮既に日本国の王臣等の為には「彼が為に悪を除くは即ち是彼が親なり」に当たれり。此の国すでに三逆罪を犯す。天豈之を罰せざらんや。涅槃経に云はく「爾の時に世尊、地の少土を取って之を爪の上に置き迦葉に告げて言はく、是の土多きや、十方世界の地土多きや。迦葉菩薩仏に白して言さく、世尊爪の上の土は十方所有の土の比ならず四重禁を犯し五逆罪を作って一闍提と作って諸の善根を断じ是の経を信ぜざるものは十方界所有の地土の如く五逆を作らず一闍提と作らず。善根を断ぜず。是くの如き等の涅槃経典を信ずるは爪の上の土の如し」等云云。経文の如くんば、当世日本国は十方の地土の如く、日蓮は爪の上の土の如し。

法華経に云はく「諸の無智の人有りて悪口罵詈等す」云云。法滅尽経に云はく「吾般泥洹の後五逆濁世に魔道興盛なり。魔、沙門と作って吾が道を壞乱し悪人転た多くして海中の沙の如く、劫尽きんと欲せん時日月転た短く、善者甚だ少なく若しは一若しは二人」等云云。又云はく「衆魔の比丘命終の後、精神当に無択地獄に墮すべし」等云云。今道隆が一党・良観が一党・聖一が一党・日本国の一切四衆等は是の経文に当たるなり。法華経に云はく「仮使劫焼に乾れたる草を担ひ負ひて中に入れて焼けざらんも、亦未だ難しと為す。我が滅度の後に若し此の経を持ち一人の為にも説かん、是則ち為れ難し」等云云。日蓮は此の経文に当たれり。「諸の無智の人有りて悪口罵詈等し、及び刀杖を加ふる者あらん」等云云。仏陀記して云はく「後五百歳に法華経の行者有りて、諸の無智の者の為に必ず悪口罵詈・刀杖瓦石・流罪死罪せられん」等云云。

日蓮無くば釈迦・多宝・十方諸仏の未来記は当に大妄語なるべきなり。

疑って云はく、汝当世の諸人に勝るゝ事は一分爾るべし。真言・華嚴・三論・法相等の元祖に勝るとは豈慢過慢の者に非ずや。過人法とは是なり。汝必ず無間大城に墮すべし。故に首楞嚴經に説いて云はく「譬へば窮人妄りに帝王と号して自ら誅滅を取るが如し。況んや復法王如何ぞ妄りに竊まん。因地直からざれば果紆曲を招かん」等云云。涅槃經に云はく「云何なる比丘か過人法に墮する。未だ四沙門果を得ず。云何ぞ当に諸の世間の人をして我は已に得たりと謂はしむべし」等云云。答へて云はく、法華經に云はく「又大梵天王の一切衆生の父なるが如し」と。又云はく「此の經は諸經の中、最も為れ第一なり。能く是の經典を受持すること有らん者も亦復是くの如し。一切衆生の中に於て亦為れ第一なり」等云云。伝教大師の秀句に云はく「天台法華宗の諸宗に勝れたるは所依の經に拠る。故に自讚毀他ならず。庶くは有智の君子、經を尋ね宗を定めよ」等云云。星の中に勝れたるは月、星月の中に勝れたるは日輪なり。小国の大臣は大国の無官より下る傍例なり。外道の五通を得るは仏弟子の小乗の三賢の者の未だ一通を得ざるも天地猶勝れり。法華經の外の諸經の大菩薩は法華の名字即の凡夫より下れり。何ぞ汝始めて之に驚くや。教に依って人の勝劣を定む。先づ經の勝劣を知らずして何ぞ人の高下を論ぜんや。

問うて云はく、汝法華經の行者為らば、何ぞ天汝を守護せざるや。答へて云はく法華經に云はく「悪鬼其の身に入る」等云云。首楞嚴經に云はく「修羅王有って世界を執持して能く梵王及び天の帝釈四天と権を争ふ。此の阿修羅は変化に因って有り、天趣の所損なり」等云云。能く大梵天王・帝釈・四天と戦ふ大阿修羅王有り。禅宗・念仏宗・律宗等の棟梁の心中に付け入りて、次第に国主国中に遷り入りて賢人を失ふ。是くの如き大悪は梵釈も猶防ぎ難きか。何に況んや日本守護の少神をや。但地涌千界の大菩薩・釈迦・多宝・諸仏の御加護に非ざれば叶ひ難きか。日月は四天の明鏡なり。諸天定めて日蓮を知りたまふか。日月は十方世界の明鏡なり。諸仏定めて日蓮を知りたまふか。一分も之を疑ふべからず。但し先業未だ尽きざるなり。日蓮流罪に当たれば教主釈尊衣を以て之を覆ひたまはんか。去年九月十二日の夜中に虎口を脱れたるか。「必ず心の固きに依りて神の守り即ち強し」等とは是なり。

汝等努々疑ふこと勿れ、決定して疑ひ有るべからざる者なり。恐々謹言。

五月五日

日蓮花押

此の書を以て諸人に触れ示して恨みを残すこと勿れ。

土木殿

空に読み覚へよ。老人等は具に聞き奉れ。早々に御免を蒙らざる事は之を歎くべからず。定めて天之を抑ふるか。藤河入道を以て之を知れ。去年流罪有らば今年横死に値ふべからざるか。彼を以て之を惟ふに愚者は用ひざる事なり。日蓮が御免を蒙らんと欲するの事を色に出だす弟子は不孝の者なり。敢へて後生を扶くべからず。各々此の旨を知れ。